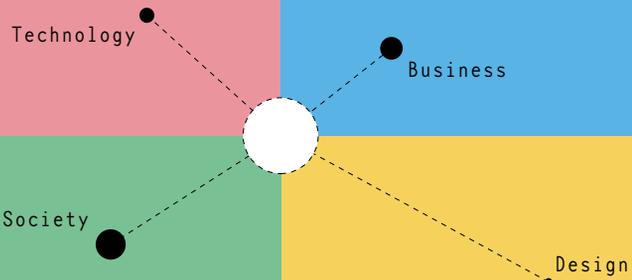


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp



脆弱な個人と強靱な社会

とても弱い人間

人間というのは不思議な動物だ。1人の人間を観察すると実に頼りない存在に見える。私が精一杯に走ってみても犬にかなわない。力を出し切っても馬に負ける。人間はカラスのように空を飛ぶことができない。

それでも地球の上では人間が一番偉そうにしている。これは生身の人間がバラバラに暮らしているのではなく、文明あるいは文化というべきものだ。つまり人間は社会を構成していて、その人間社会は犬より早く移動できる道具を生み、馬より大きな動力を駆使できる。さらに空を飛ぶこともできる。

一方で、現代のような文明社会においても、個人の力は限られている。いかに現代文明の利器を活用しようとも、1人の人間にできることには限界がある。

社会を成立させている情報

人間社会を構成しているのは脆弱な個人である。その社会が全体として強力になるためには、単に個人を寄せ集めただけではダメだ。人間社会を考察する学問は、本来は社会科学に属するものだが、ここでは技術的な面から考えてみよう。

社会を構成している要素は人間だ。人間はお互いにいろいろな「もの」をやり取りしている。つまり交換をしている。交換の対象を単純に分類すると、物質、エネルギー、情報、である。

人間が社会的な生活を送るためには、もちろん物質をお互いに交換する必要がある。またエネルギーの授受も大切だ。ただし文明が進化するにつれて、情報交換の重要性が高まっている。

人間が情報を交換することは、パソコンやインターネットが誕生する以前から行われていた。たとえば電話や放送は情報交換の例だ。はるか昔の平安時代の物語に手紙を交換する行為が記されている。物語という形式も情報交換とみなすことができる。

1人の人間が社会から隔絶されてロビンソン・クルーソーのように完全に自給自足の生活を送っていたら、社会生活はなく、情報交換の必要もない。ところでロビンソン・クルーソーという名前を多くの人が知っているのは、それがデフォー著の小説であるから、つまり物語として情報交換されているからなのだ。

世の中は情報に満ちている

昔から続いている人間社会の情報交換が、さらに便利になってきた。インターネットは人間社会における情報交換の重要性を浮き彫りにしている。

人間社会には情報があふれている。たとえば貨幣は情報価値である。貨幣論の岩井克人先生(東京大学)によると、日本の1万円札は材料に還元すると20円にも満たないが、立派に1万円として通用する。これは社会の構成員が1万円札を1万円であると認めているからだ。しかも無期限に通用すると信じている。額面どおりに通用していない紙幣の例はいくつもある。

法律による規制や慣習、慣例なども、多くの場面では情報価値だと思う。その根元には物質的、あるいはエネルギー的な強制があるとしても、人々は多くの人が守る規則ならば守る。その一方で、交通信号が赤色でも、皆で渡る場合には信号を無視して渡ってしまう。

地図を見て行動したり、天気予報によって傘を携帯したり、テレビ番組表を見て録画をしたり、レシピを参照して料理を作ったりする。人間社会から情報を取り除いたら、生活が成立しないだろう。

まだまだ不足している情報

最近の日本社会は元気がない。不景気の原因を個人に還元して叱咤激励するような風潮があるので、ますます暗くなる。冒頭に書いたように個人は弱い。社会の力を使わないと強くなれない。

情報の交換によって社会が成立するのだから、強靱な社会では情報の交換や共有がうまくいっているはずだ。逆にいうと、元気がない社会には情報が不足している。現代の日本は情報があふれているように見えて、実は肝要な情報が欠如しているのではないか。

現在の日本の最大の課題が不良債権の解消であるとしても、それはマイナスをゼロにするようなものだから、次にプラスに向かう力が必要である。もしプラスに向かう展望があるならば、不良債権が残っている間でも投資する先があるはずだ。そのプラスの情報が社会に必要だ。

これだけ不景気が続いているのだから、プラスの材料は簡単には見つからない。そこで個人で悩んでみても弱い。今こそ社会の力を発揮するべきときだ。そのキーワードは情報の交換と共有である。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp